

普及項目	増養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ヒオウギガイ
対象海域	天草海

ヒオウギガイの種苗生産指導

天草広域本部水産課・郡司掛 博昭

【背景・目的・目標（指標）】

ヒオウギガイは、その彩りの良さから旅館での食事や贈答用として人気の二枚貝であり、天草地域を中心に養殖が営まれ、県内で年間 50～60 トンが生産されている。

種苗は、主に県外から購入しているが、種苗生産量の減少や全国的な養殖の人気の高まりを受け、種苗価格が高騰するとともに、養殖に必要な量の安定確保が課題となっている。

このような中、令和 6 年度（2024 年度）に天草市崎津地区の養殖業者から人工種苗生産について相談があったことから、地元で実施可能な人工種苗生産技術開発に向けて、種苗生産が可能となる産卵時期の把握を目標として技術指導を実施した。

【普及の内容・特徴】

養殖業者に、産卵時期について聞き取り調査を実施するとともに、顕微鏡でヒオウギガイの成熟状況を観察した。

また、成熟状況の観察に使用したヒオウギガイを用いて予備試験として人工授精を試みた。

【成果・活用】

図 1 のように出荷作業用水槽内で放卵放精する時期について漁業者に確認したところ、4 月後半から 8 月上旬までは確認できるとの回答であった。また、令和 6 年（2024 年）6 月 26 日に成熟状況を確認したところ、生殖巣が発達しており、種苗生産に供することが可能と考えられた。

一方、既存の知見を利用し、雄のヒオウギガイから切開法で採取した精子を混ぜた海水に 1 時間浸漬して放卵を試みたが、放卵は確認できなかった。

今後は、5～6 月に出荷作業用水槽で自然放卵した卵を回収し、種苗生産試験を実施するとともに、再度知見や情報を収集し、自然放卵を試みる予定である。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図 1 放卵放精したヒオウギガイ



図 2 ヒオウギガイの成熟状況確認